

## 要約 京都の経営経済動向調査結果 (2016. 12. 26)

－2016年10～12月期実績と2017年1～3月期及び4～6月期予想－

京 都 商 工 会 議 所  
担当：中小企業経営支援センター  
電話 (075) 2 1 2-6 4 6 7

自社業況は改善するもマインドは低下  
～国内景気は4期連続してマイナスで推移～

### 概 要

今期の国内景気BSI値は▲2.2(前期実績▲9.7)と下降幅は縮小したものの4期連続マイナスで推移した。続く2017年1～3月期は▲7.4と下げ幅が拡大、その後の4～6月期に▲0.9と若干持ち直すも依然としてマイナス圏での推移は変わらず先行きへの不安感が伺える。

一方、自社業況は秋の需要期を迎え、小売業、サービス業など観光関連産業等が牽引し、BSI値5.6(前期実績▲5.5)と大きく回復した。しかしながら、前回の予想値8.6を下回る結果で、続く2017年1～3月期は▲8.3と再びマイナスに転じ、その後4～6月期についても0.9と僅かにプラスへ持ち直す予想。アメリカ大統領選挙の影響や恒常的な労働力不足などが懸念材料となり慎重な姿勢に表れているとみられる。

(注) 11月の上旬から下旬にかけて同調査を実施し、577社中444社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業)。また10～12月期のBSI値は、7～9月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

### I 国内景気動向

2016年10～12月期は、「上昇」とした企業14.5%(前期実績7.7%)、「下降」とした企業18.8%(前期実績27.0%)、BSI値▲2.2(前期実績▲9.7)となり、下降幅は狭まった。しかし、今後の2017年1～3月期は、再び▲7.4と下降幅が拡大し、続く4～6月期も▲0.9と下降が続く見込みとなっている。

### II 企業経営動向

**自社業況(総合判断)** 2016年10～12月期は、「上昇」とした企業33.2%(前期実績18.4%)、「下降」とした企業22.1%(前期実績29.3%)、BSI値5.6(前期実績▲5.5)とプラスに転じた。しかしながら、今後の2017年1～3月期のBSI値は▲8.3と再び下降に転じ、続く4～6月期は0.9へと再びわずかながら上昇する見通しとなっている。

**1. 生産・売上高、工事施工高** 2016年10～12月期は、「増加」37.1%(前期実績21.7%)、「減少」22.6%(前期実績31.2%)、BSI値7.3(前期実績▲4.8)と大きく増加した。今後の2017年1～3月期のBSI値は▲6.8と再び減少に転じ、続く4～6月期は0.9へと回復する見込みとなっている。

**2. 製・商品・サービス・請負価格** 2016年10～12月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設業請負価格を総合的に見ると、「上昇」11.2%(前期実績4.9%)、「下降」7.3%(前期実績10.0%)、BSI値2.0(前期実績▲2.6)と上昇した。続く2017年1～3月期のBSI値は▲2.1と下降に転じ、4～6月期は1.6と再び上昇する見通しとなっている。

3. 経常利益 2016年10～12月期は、「増加」32.0%（前期実績16.2%）、「減少」25.2%（前期実績32.4%）、BSI値3.4（前期実績▲8.1）と上昇に転じた。今後の2017年1～3月期のBSI値は▲8.3と再び減少に転じ、続く4～6月期も若干改善するものの▲1.4と減少が続く見込みとなっている。
4. 所定外労働時間 2016年10～12月期は、「増加」27.0%（前期実績15.0）、「減少」9.5%（前期実績18.4%）、BSI値8.8（前期実績▲1.7）と増加した。今後の2017年1～3月期のBSI値は▲3.6と転じて減少し、続く4～6月期は▲1.2と減少が続く見込みとなっている。
5. 製・商品在庫 2016年10～12月期は、「適正」とする企業が76.8%（前期実績79.1%）、「過剰」とする企業が18.1%（前期実績17.7%）、「不足」とする企業が5.1%（前期実績3.2%）、BSI値6.5（前期実績7.3）と適正水準で推移したが、一部で過剰感が強まった。今後の2017年1～3月期は「適正」が85.6%、BSI値4.8で、4～6月期は「適正」89.3%、BSI値3.3と適正水準に向かう見通しとなっている。
6. 資金繰り 2016年10～12月期は、「改善」とする企業が11.8%（前期実績5.8%）と増加、「悪化」とする企業が9.8%（前期実績11.2%）と減少し、BSI値が1.0（前期実績▲2.7）と改善した。一方で今後の2017年1月～3月期のBSI値は▲2.8と再び悪化し、4～6月期に0.4と幾分改善する見通しとなっている。

### Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位は、「受注・売上不振」（50.0%）、第2位は、前回第3位の「求人難」（32.2%）が順位を上げ、第3位は、前回第2位の「過当競争」（26.6%）、第4位は、前回第5位の「人件費負担増大」（19.6%）、第5位は、前回第4位の「技能労働者不足」（18.2%）という結果となった。

B. S. I. 値の総括表		実 績		予 想	
		2016年7～9月期	2016年10～12月期	2017年1～3月期	2017年4～6月期
国内景気動向		▲ 9.7	▲ 2.2	▲ 7.4	▲ 0.9
京都企業の経営動向	自社業況（総合判断）	▲ 5.5	5.6	▲ 8.3	0.9
	1. 生産・売上高、工事施工高	▲ 4.8	7.3	▲ 6.8	0.9
	2. 製・商品・サービス・請負価格	▲ 2.6	2.0	▲ 2.1	1.6
	3. 経常利益	▲ 8.1	3.4	▲ 8.3	▲ 1.4
	4. 所定外労働時間	▲ 1.7	8.8	▲ 3.6	▲ 1.2
	5. 製・商品在庫	7.3	6.5	4.8	3.3
	6. 資金繰り	▲ 2.7	1.0	▲ 2.8	0.4

※ B. S. I. 値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) ×  $\frac{1}{2}$